

山形市PTA連合会 会報

じゅひょう

山形市PTA連合会ホームページ ymgtcity-pta.com



検索

第39号

令和3年12月発行

発行 山形市PTA連合会
会長 船橋吾一
山形市大字風間字地蔵山下2068
弘栄設備(株)内
TEL 023-676-8693

印刷 武田紙工株式会社



■ 2 教えることと学ぶこと

- 一斉休校中に考えたこと
 - ・オンライン(遠隔)授業では教える側のコントロールはむずかしい。
 - 「学ぶ主導権は学び手にある」という当たり前を実感する。
 - 「決められた時間数を教える」「学ぶ」が通用しない。
 - 「教える」すらない、「課題提示」のみ。
 - 学び手が逃げる、学び手不在の授業。
 - ・「学習内容、他者、自分などとの出会いやつながりがない個別最適な学びと協働的な学びの実現



第64回山形市PTA連合会 研修大会(山形テルサ)

『人とひとのつながりを再確認しよう!』

～愛する子どもたちの健全な育成と幸福のために～

HP:<https://www.ymgtcity-pta.com> E-mail:info@ymgt-pta.jp

令和4年度

第70回日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます!!

『人とひとのつながりを再確認しよう！』

～愛する子どもたちの健全な育成と幸福のために～

山形市P T A連合会 会長 船 橋 吾一



日頃より山形市P T A連合会の活動に対しご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、単位P T Aにおいても子どもたちの健全育成のための環境づくりや学校と地域の架け橋として、ご尽力いただいておりますことに心より感謝と敬意を表します。

新型コロナウイルス感染拡大により私たちを取り巻く環境は一変し、様々な変化に対応していくかなければならない時代となりました。こうした中、山形市P T A連合会は愛する子どもたちの健全な成長と幸福のためにも「学びの歩みを止めない」という想いから、今年度は『人とひとのつながりを再確認しよう！』～愛する子どもたちの健全な育成と幸福のために～のスローガンのもと活動を展開してまいりました。

今年度の山形市P T A連合会研修大会は、～育もう！ 子どもたちの夢・希望・優しさ～－家庭・学校・ニューノーマル時代地域で『今』できること－をテーマに、第4ブロックの皆様からご準備いただき開催することができました。シンポジウムでは大きな環境の変化を踏まえ、テーマの重要性について講師の先生の話を伺うとともに、学校現場・教育行政、教育相談・発達支援、P T A・子ども会など立場の異なる方々との意見交換をとおして課題を共有し、解決に向けたヒントを探ることができました。

市P連ソフトボール大会は、新型コロナウイルス感染予防の観点から昨年度に引き続き中止になりましたが、市P連教育懇談会は感染拡大防止策として初のリモート開催で実施することができました。当日は、荒澤教育長をはじめ各学校のP T A会長他、関係者の皆様よりリモートでのご参加をいただき、「G I G Aスクール構想と学びの保障」～子ども一人ひとりの学びを保障するために～をテーマに、市教育委員会の方から教育現場の状況と今後の展開についてのご説明をいただきました。また、親学「いのちの大切さ学習会」では、新型コロナウイルス感染拡大防止（手洗い・マスク着用・三密回避対策等）を徹底した上で、情報リテラシー専門家から「正しく怖がるインターネット・事例に学ぶ情報リテラシー」の講話をリアルでお聞きすることができました。コロナ禍においても、山形市P T A連合会はあらゆる変化に対応しながら、愛する子どもたちの健全な成長と幸福を願い、「つながり」を大切にしながら私たちの学びを深めてきました。これからも、大きく変化する教育環境に親としてP T Aとして出来ることを、歩みを止めることなく学び続けたいと考えています。

さて、いよいよ令和4年に日本P T A全国研究大会山形大会が開催されます。全国からの参加者を、～あがらっしゃい～の笑顔で迎えたいと思います。山形市P T A連合会の皆様からの全面的なご協力をお願い申し上げます。

結びに、山形市教育委員会様をはじめ関係各位の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げ、あいさつといたします。

変わらぬご理解とご支援、 そして、ご協力を

山形市教育委員会 教育長 荒澤 賢雄



山形市PTA連合会並びに単位PTA、そして、会員の保護者の皆様には、山形市の教育充実のためにご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。また、学校内外において子どもたちの健全育成等にご尽力をいただき心より感謝を申し上げます。さらに、船橋吾一市PTA連合会会長をはじめ、各小中学校のPTAの皆様方の学校、家庭、地域の連携に関わる多大なるご貢献に対しても深甚なる敬意を表します。

さて、2カ年続けてコロナ禍の社会状況となり、各学校では、昨年度1年間の継続した感染対策で得られた知見をもとに徹底した感染対策を進めながら、日常の教育活動ができるだけ実施していくことを基本として努力してまいりました。しかしながら、7月から9月にかけて、感染力の強い変異株ウイルス・デルタ株による全国的な感染流行(第5波)が猛威を振るい、山形県でも同時期は連日2桁の感染者が報告される事態となり、感染防止のために児童生徒の教育活動は制限せざるを得ない状況となりました。県外を予定していた修学旅行は県内となり、水泳授業や校外での教育活動、部活動等における他校との交流や、校内での異学年交流なども原則中止となりました。さらに、学校行事等への保護者の皆様の参加を制限せざるを得なかつたり、PTA活動は自主的に自粛されたりと、保護者の皆様方にも大変なご苦労をいただき、また、ご心配とご迷惑をお掛けいたしました。

このような中、各学校では、児童生徒の学校生活への戸惑いや心身への影響を第一に考え、一人ひとりに寄り添いながら、工夫を凝らした学習活動に全力で努めていただきました。各学校の校長先生はじめ、先生方の子どもたちの安全安心を守るための献身的なご努力と創意工夫を凝らした授業実践に対して、心からの敬意と感謝の念を表したいと思います。

新型コロナウイルス感染症の恐怖から完全に解き放たれるには、もう少し辛抱が必要なのかもしれません。これからも各学校では、徹底した感染対策と教育活動の工夫をしながら、子どもたち一人ひとりの確かな成長を育んでまいります。保護者の皆様方には、各学校の教育に対する変わらぬご理解とご支援、そして、ご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、いよいよ来年度は日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます。船橋大会実行委員長の出身母体である山形市PTA連合会は、これまでの準備でも牽引役としてご活躍されていることと思います。山形大会は70回という、まさしく節目の大会であるばかりでなく、準備段階から当日の運営まで積極的にコロナ克服を目指した大会として、記憶される大会となることでしょう。

大会スローガン「人とひとつながりを体感しよう！～あがらっしゃい精神の山形から～」は、コロナ禍、人間関係やつながりの希薄化や様々な制限によるストレスなど、大人も子どもも心への影響が危惧されている現在の社会状況に根差したものとなっています。スローガンの志を共有する皆様方から、実効性のある提言を家庭や学校へ、そして、地域社会へと広がっていくことを心からご期待申し上げます。



市P連研修大会を終えて

山形市立第四中学校PTA大会実行委員長 鈴木崇人



令和3年7月11日、2年ぶりに第64回山形市PTA連合会研修大会を開催しました。多くの皆様のご理解ご協力をいただきましたことに対し、心より感謝を申し上げます。

このたびの研修大会は、コロナ禍の影響が続いている状況を考慮し、感染防止対策を講じながら、参加者を大幅に制限したほか、複数の分科会を中止し、講話とパネルディスカッションで構成するシンポジウムへ変更するとともに、大会後に動画を配信する新たなスタイルで行いました。

本研修大会のテーマは、「育もう！ 子どもたちの夢・希望・優しさ～家庭・学校・地域で今(ニューノーマル時代)できること～」としました。コロナ禍により、家庭・学校・地域を取り巻く環境が大きく変化する中で、子どもたちが夢を抱き、希望や優しさを持ち続けるために、何ができるのかについて学び、考える機会にしていただきたいとの思いです。

講話では、山形大学の出口毅副学長を講師にお招きし、「ニューノーマル時代の教育を考える」と題し、全国一斉休校やオンライン授業などの経験を経て浮き彫りとなった課題について、実際に大学で起こっていた事例を踏まえてお話しいただきました。その後のパネルディスカッションでは、講話を受け、教育行政、教育相談、子ども会育成・PTAなどに携わる方々からそれぞれの立場でお話しいただきました。このシンポジウムを通して、今後のPTA活動への多くのヒントを得ることができたのではないかと思います。

結びに、本研修大会の開催にあたり、ご指導ご支援いただきました船橋会長はじめとする山形市PTA連合会の皆様、山形市教育委員会、講師の出口氏、パネリストの田中氏、區藤氏、佐藤氏、そして、参加いただいた会員の皆様に改めて深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



第70回日本PTA全国研究大会山形大会の成功に向けて

山形大会を支援する会会長 遠藤正明



令和4年8月、日本PTA全国研究大会が山形県内にて開催されます。この大会は、山形県PTAの取組を全国に発信出来る千載一遇のチャンスです。既に、『いじめのない環境をこの山形から』という、山形県内PTA協同参画型発信事業が展開されています。この事業を開催年度まで継続し、その成果を全国に発信していく機会を得る事が出来ました。必ずや全国の先進モデルになると思っています。

また、全国研究大会に参加出来る事も魅力のひとつです。2年間は、コロナの影響で多くの人が集っての大会を開催する事が出来ませんでした。山形大会は、県内各地で分科会を行います。依って、各地都市の皆さんのが大会に参加する事が可能になり、全国から集まるPTA会員と共に学ぶ研究大会になると考えています。

そして、この度はPTAを卒業したメンバーで「山形大会を支援する会」を立ち上げ県内企業の皆様から支援金を頂戴する事になりました。更に、都市PTA毎に支部を立ち上げて、地域に密着した支援の会を作っています。現在コロナの影響等で、経済状況の厳しい時代ではありますが、多くの民間企業がPTAを応援している証になると 생각ています。

これからは、山形大会準備に向けてPTAへの関心が高まり、地域で子どもたちを守り育てていく機運が、より醸成される事が大会の成功につながります。開催後も山形県のPTAが、より活性化していく事でしょう。そしてこれを機に、次世代を担う大切な子どもたちの為に、関わる全ての皆さんに考え方行動していただきたいと願っています。

2022年8月26日(金)より山形県内各地で、第70回日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます。山形市においては、特別第2分科会と8月27日(土)に開催される全体会の会場が設けられ、全国のPTA関係者とともに理解を深める絶好の機会となります。皆様のご参加、ご協力をお願いします。



第70回 日本PTA全国研究大会山形大会 第54回 日本PTA東北ブロック研究大会山形大会

2022.8.26[金]▶27[土]

● 大会スローガン

『人とひとのつながりを体感しよう！』

～あがらっしゃい精神の山形から～

● メインテーマ

- ・「いのち」のつながりを感じ、次代につなぐPTA活動
- ・「ふるさと」を愛し、心をつなぐPTA活動
- ・生きる力を「まなび」、次代につなぐPTA活動
- ・多様な「つながり」から、子どもたちの未来を切りひらくPTA活動

■会場<8月26日(金)>

分科会	領域	開催場所	会場
第1分科会	家庭教育	村山市	村山市民会館
第2分科会	学校教育	酒田市	酒田市民会館 希望ホール
第3分科会	地域連携	新庄市	新庄市民文化会館
第4分科会	人権教育	長井市	長井市民文化会館
第5分科会	広報活動	高畠町	高畠町文化ホールまほら
第6分科会	情報教育	米沢市	伝国の杜 置賜文化ホール
第7分科会	社会教育	鶴岡市	鶴岡市文化会館 莊銀タクト鶴岡
第8分科会	環境・安全	寒河江市	寒河江市市民文化会館
特別第1分科会	日本PTA担当	天童市	天童市市民文化会館
特別第2分科会	文部科学省協力	山形市	やまぎん県民ホール

■会場<8月27日(土)>

全体会	会場	住所
メイン会場	山形市総合スポーツセンター	山形市落合1
サテライト会場	やまぎん県民ホール 酒田市民会館 希望ホール	山形市双葉町1-2-38 酒田市本町2-2-10

【第70回日本PTA全国研究大会山形大会 実行委員】

- 実行委員長 船橋吾一（藏王第一中）
- 実行副委員長 荒井 寛（藏王第二小）、高田 誠（寒河江陵南中）、前田浩一（第十中）
- 参与 佐藤博之（第六小）
- 感染対策室 室長：小林一善（第六中） / 室員：藤倉大輔（千歳小）
- 総務部 部長：伊藤健二（第九小） / 副部長：井上周士（高橋中） / 財務：兼子和伴（西小）
部員：中村秀夫（第三中）、菅野 学（第十中）、舟山力也（第一中）、矢萩洋美（第三小）、大場貴之（第三小）、
渡江朋博（第八小）
- 全体会部 部長：横山隆太（第三中） / 副部長：河又勇人（千歳小）
部員：落合康弘（南沼原小）、茂木政樹（第一小）、菊野政治（第四小）、高見佳澄（山寺小中）
笠森 愛（第四中）、半沢 忍（第六中）
- 渉外部 部長：與田貴博（附属小） / 副部長：井上智博（第五中）
部員：松田佳人（金井中）、千歳 望（附属中）、長澤 純（附属小）、長瀬 修（第一中）
- 分科会部 部長：長谷川吉之介（附属小） / 副部長：狩野慎一郎（第四中）
部員：岩田雄治（第三中）、菅野 佑吉（附属小）、小島重治（第十中）、浅野弥史（桜田小）、押野 茂（附属中）、
安藤太一郎（第一中）、小島一剛（南沼原小）
- 広報部 部長：武田靖裕（鈴川小） / 副部長：伊藤暢宏（第九中）
部員：小林伸太郎（第五小）、井上大樹（第五小）、宇野正彦（第十中）、芳賀勇治（第十中）、荒井英晴（第九中）

実践報告

『人とひとのつながり ～愛する子どもたちの健全育成～』

Make each day a happy day

～1日1日をハッピーに～

山形市立第九小学校 PTA 会長 五十嵐 直人

私たち山形市立第九小学校は、昭和 32 年 4 月に山形市宮町観音堂（後に山形市銅町二丁目に町名変更）にて産声を上げ、平成 8 年に現在の山形市馬見ヶ崎二丁目に校舎移転をし、今年で開校 64 周年目を迎えました。校庭には、本校のシンボルでもあるあかしやの木が植栽されており、633 名の元気なあかしやっ子を温かく見守ってくれています。

本年度の PTA 活動は、残念ながらほとんど執り行うことができおりません。例年 9 月には、地域の方々も含め、第九地区秋祭りを盛大に催すのですが、第 20 回という節目を前に、昨年に引き続き、今年も中止となりました。

そんな中、社会も落ち着きを取り戻し始めた今年の 10 月、車いす YouTuber 渋谷真子さんを講師に迎え、PTA 研修会を開催いたしました。メディアの取材も受けましたので、TV 等でご覧になられた方もいらっしゃるのではないかでしょうか。例年であれば、保護者主体の研修会ですが、今年は学校の先生方のご協力もあり、5・6 年生も参加しました。インフルエンサーを前に、目をキラキラ輝かせていた子どもたちが印象的でした。

講師の真子さんは、仕事中に 3m 下の縁石に背中から転落。脊髄損傷により下半身不随となり、車いす生活を余儀なくされました。食事や排泄等の日常生活も今までと同じようにはいきません。しかし、真子さんはとにかく明るく、その姿からは悲壮感は全く感じられませんでした。「できないことはできない。できることをとことん楽しもう。」と考え、毎日笑顔を絶やさずに様々なことに挑戦していました。書籍や絵本を上梓したり、テレビやラジオへの出演、プライベートでは海外旅行やスキーパラダイビングにも挑戦をし、今年の東京五輪・パラリンピックでは、聖火ランナーも務めました。真子さんの夢は、まだまだこれからも続いていることを願っています。

講演の中で、真子さんがモットーとしている事の一つに「どんな状況下にいても、新しいことを見つけ、新しいことに挑戦をし、毎日たくさん笑える環境をつくる。そして、1 日 1 日をハッピーに生きていく。」という言葉がありました。昨年の春先より、私たちの生活は一変しました。今まで当たり前だった事が、当たり前ではなくなりました。社会には閉塞感が漂い、大人だけでなく、様々な不安や悩みを抱えている子どもたちも大勢いるのではないでしょうか。真子さんのその言葉は、そんな境遇に置かれている私たちの背中を優しく、そして力強く押してくれるものでした。きっと私だけではなく、会場にいるみんなが、同じように感じたと思います。唯一といつても PTA 行事でしたが、多くの方々のご協力の下、執り行うことができ本当によかったです。

社会が平時に向かい始めていますが、来年度こそは、多くの学び舎でたくさんの子どもたちの笑顔が弾けるよう心より祈念しております。残りわずかではございますが、私も来年度にバトンを渡すべく、引き続き PTA 活動を邁進していきたいと思います。



「出羽小学校 120 周年を迎えて」

山形市出羽小学校 PTA 会長 星川 健一

令和 3 年、出羽小学校は 120 周年を迎えました。明治 34 年、前身となる出羽尋常高等小学校として創立され、明治・大正・昭和・平成・令和と、5 つの時代を 120 年という長い時間をかけて歴史と伝統を作り上げてきました。その中で主役はいつも子どもたちであり、出羽小学校で学んだ多くの先輩方から今の子どもたちに伝統が継承されてきました。コロナ禍により盛大な式典はできませんでしたが、テレビでの校内放送を通じ出羽小学校 120 周年を全校児童でお祝いすることができました。

新型コロナウィルス感染症の流行により、日常生活、学校生活が大きく一変し、制約も多くなる中で子どもたちは自分たちで何ができるかを考え、行動し、今年度は自分たちで力を合わせて運動会を開催することができました。前日からの雨でグラウンドの状態が心配される中、運動会当日は見事に晴れ汗ばむ陽気になり、見事運動会は大成功に終わりました。運動会当日は残念ながら感染拡大を考慮し無観客でしたが、学校側より練習風景を見学できるなど保護者への対応をしていただきました。

10 月には出羽地区を上げて盛大に花火大会も実施され、感染対策をしながら間近で花火を見ることができ、子どもたちの思い出に残る 120 周年になったのではないでしようか。

出羽小学校の成長の合言葉「ひらめけ頭」「はみ出せこころ」「とび出せ体」を目標にしながら子どもたちは日々どうしたらよりよい学校生活を送ることができるか考えながら行動しています。これに伴い、私たち PTA も一丸となって今まで以上に学校と協力して活動していくなければならないと思います。出羽小学校 PTA のスローガン「子どもたちの笑顔が見たいから」を掲げ、子どもたちが毎日笑顔で学校生活が送れるよう学校職員と地域住民の方々の協力とともに、日々、子どもたちの活動を支援していきたいと思います。



りを再確認しよう!』 な育成と幸福のために~

小学校は地域とのコミュニティ

山形市立南沼原小学校 PTA 会長 金澤忠治

本校は明治36年4月に南館尋常小学校、沼木尋常小学校、南沼原高等小学校が合併し、南沼原尋常高等小学校として誕生。今年で創立117周年を迎えます。

「南沼原」という名前の由来は南館・沼木・吉原地区の一文字をとって名付けられました。

以前は、田んぼの真ん中にポツンと古い校舎があっただけの農村地域でしたが、近年は多くの大型商業施設が建設され、昭和58年には児童数が1300名を超え、現在も全校児童は844名と、県内一のマンモス校となっております。しかし、マンモス校であるがゆえ、コロナ禍による活動制限の影響は大きく、児童においては他学年との交流を控え、また全校集会も開催できない状況が続いております。PTA活動も同様に4月からの活動は自粛が続き、満足に学校と児童、PTAの連携による事業が行えておりません。

今年も残念ながら中止になりましたが、毎年6月にPTA主催による「はらっぱ祭り」というイベントを開催しております。父母による出店やフリーマーケット、スポーツ競技などを父母で企画・準備をし、学校施設をお借りして、子どもたちと父母が笑顔いっぱいに交流しておりました。シャボン玉ではしゃぐ子どもたちや玉こんにゃくを口いっぱいに頬張る子どもたちの笑顔が思い出されます。

現在は新校舎が来年度の完成に向けて建設中です。新校舎は私たちPTAや地域の方々、また卒業生など、多くの南沼原小学校に携わっている方々の大きな期待であります。

小学校は地域と交わるコミュニティであり、多くの方との出会いや協力のもと成長し、助け合って存続しています。今後もコロナ禍という、非常に交流が難しい時代となっておりますが、「地域」と共に生きることの大ささを守りながら、子どもたちにはしっかりと南沼原の文化と歴史を受け継いで欲しいと願っております。



令和時代のPTA活動

山形市立第二中学校 父母と教師の会会長 後藤康晴

山形市立第二中学校は西バイパスの西側、山形市西消防署の近くに位置しています。山形西小と山形七小、山形十小、宮浦小の一部の学区から成り立ち、現在の生徒数は440名となっています。山形二中は「文武両道」を目指して勉強にも部活動にも努力する生徒を育ててきました。近年は「凡事徹底」という言葉も掲げて当たり前のことがきちんとできる生徒を目指しています。

本校PTAの令和3年度は他校と同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、保護者が学校に来校する機会が極めて少なくなってしまいました。授業参観、創立記念式、中体連、体育祭、合唱祭、PTA行事では総会を書面決議とし、資源回収を中止、ソフトバレーの球技大会と、ソフトボール大会の二中杯も断念せざるを得ませんでした。各種懇親会も行うことが出来ずPTA役員同士の親睦を深める事も難しい中での活動となりました。そんな中でも、十分な感染対策を行った上で、社会部による二中学区内の見回り活動、環境美化部によるプランターへの植栽、文化部によるPTA会報誌の発行の3行事だけは行う事が出来ました。例年と比べると半分以下の活動量になると思います。この文章を書いているのは2021年の11月なのですが、みんなの意識の高さと我慢が実を結び現在の安定した学校生活が送られていると思っています。

元より、生徒数の減少と共に働き世帯の増加、教職員の働き方改革を考えた時にPTA組織の縮小を考えなければなりませんでした。コロナ禍がきっかけとなり令和時代に相応しいPTAへ変革していく気がします。生徒の事を第一に考え必要な活動は何かを絞り込み、会員全員が納得して参画してくれる山形市立第二中学校父母と教師の会を目指していきたいと思います。



県内 P T A 協働参画型発信事業実績報告

『いじめのない環境をこの山形から』

親子でともに育む思いやりの心

山形市立蔵王第二小学校 PTA 会長 上條 智広

蔵王第二小学校は、全校児童 77 名の小規模の学校です。蔵王の麓に位置し、自然に恵まれた環境が整っています。学校教育目標として「あかるく かしこく ねばり強い 蔵王の子ども」という言葉を置いています。「あかるく」自分も相手も大切にする子ども、「かしこく」よく考え行動する子ども、「ねばり強く」協力して暮らしをつくる子ども。自分を認め、成長を感じ、思いやりと自尊感情を育むことを重視しています。また小規模校の為、学年の垣根を超えた交流が盛んです。

昨年より山形県内 P T A 協働参画型発信事業「いじめのない環境をこの山形から」の採択を受け活動をしています。「親子でともに育む思いやりの心育成事業」をテーマに設定し、PTA 一体となり、2 つの活動を行いました。①4・5 年生を対象とした『親子合同研修会および保護者参加型学習参観』。人とのよりよい関係づくりについて、親子で学びました。②6 年生を対象とした『卒業生との交流会』。先輩に中学生活の様子を聞くことで、入学前に心の準備が出来るようになりました。

また今年度も継続し、良い人間関係に気づき学ぶ 5 つの事業を行います。①仲良しの関係を表現した缶バッジ作り②標語・短歌の掲示 ③友達に関する読み聞かせ ④親子合同研修 ⑤卒業生との交流会。いじめのない環境を子どもたち自ら考え、話し合い、その活動が家庭や地域に広がっていくことを期待しています。



『レインボープラン』

山形市立第十中学校 PTA 会長 宇野 正彦

本校は、今年創立 38 年になりました。市立の中でも一番新しい中学校です。歴史的にはまだまだ他の中学校にはかないませんが、先輩達が作り上げたスポーツ・文化における輝かしい功績や、地域のつながりなどは、他の学校にも引けを取らないと思っています。今年も去年に引き続きコロナ禍で暗い世の中において、男女駅伝が全国大会に出場することは、学校関係者のみならず、十中学区においても非常に盛り上がっているところです。

さて令和 4 年度に開催される、日本 P T A 全国大会山形大会において、県内 P T A 共同参画型発信事業「いじめのない環境をこの山形から」の事例発表にあたり、十中 PTA が手を上げさせていただきました。教育会において、永遠の課題であるいじめ撲滅は十中においても例外ではありません。令和 2 年度に委員会を立ち上げ、保護者有志と校長が主体となり、その活動を『レインボープラン』と名づけ何度か会合を持つことが出来ました。その中で、いじめ対象になった、生徒・保護者同意のもと、同じ目線のメンバー（保護者）による、学校に対する意見や対応など、解決に向けた取り組みを行うことにしました。PTA 第四者委員会と位置づけして、これからも様々な形で活動してまいります。

最後に、今年度もコロナ禍において思うような P T A 活動が出来ない中でも、バイタリティーのある校長と出会い創意工夫しながら活動出来たことに感謝いたします。



令和3年度山形市PTA連合会教育懇談会

— 報 告 —

研修委員長 武田 靖裕

日 時：令和3年10月18日（月）17：00～

場 所：リモート開催

テーマ：「GIGAスクール構想と学びの保障」～子ども一人ひとりの学びを保障するために～

10月18日（月）、感染拡大防止策として初のリモート開催による教育懇談会を実施いたしました。当日は、荒澤教育長をはじめ各学校のPTA会長他、関係者の皆様よりリモートでのご参加をいただきました。山形市教育委員会 学校教育課主任指導主事（兼）ICT教育推進係長の板垣真也様を講師にお招きし、ICT技術を活用したGIGAスクール構想について、教育現場で行っている状況と今後の展開についてのご説明をいただきました。

昨年の「臨時休校」から始まるコロナ禍での教育現場の中で、1人1台のタブレット配布などGIGAスクール構想は当初の予定より前倒しで始まりましたが、関係者と先生方のご尽力で大きな収穫を得ていると感じております。その内容について1つ1つわかりやすく、また学校で利用している実施例を交えてご説明をいただきました。使い方によって、子どもの理解度に合わせて個別最適化な学習方法が教室で同時に実現することは、これからの中学校教育では大変重要なことだと思います。その上で、これまでの読み書きなどの学習についても重要な学習方法であることもご説明いただきました。

そして今後の展開として、タブレットの自宅への持ち帰りが学年ごとに順次始まります。家庭学習については保護者としても非常に興味があるところです。ネット環境や想定されるリスクについても検証を行なながら進めていくことで、安全かつ最適な学習方法が取れる環境が出来てきます。私たちPTAにとっても変わりゆく教育現場の状況をしっかりと理解し、子どもの学びをより深めるサポート体制が整えられるようしていきたいと感じました。

ご参加いただきました皆様に感謝申し上げるとともに、これからも日々変わりゆく教育現場にPTAとして出来ることを探し、行動するために多くの研修を重ねていきたいと思います。学びの歩みを止めないために、新しい生活様式に即しながらの活動に今後ともご協力いただきますようお願いします。報告とさせていただきます。



いのちの大切さ学習会

正しく怖がるインターネット・事例に学ぶ情報リテラシー



研修委員 今野 幹雄

去る10月31日（日）14時より、山形国際交流プラザにて「正しく怖がるインターネット・事例に学ぶ情報リテラシー」と題し小木曾 健氏を講師に「いのちの大切さ学習会」が開催されました。小木曾氏には、どのようにしたらインターネットを安全かつ楽く利用できるかを、実際の事例を題材にご講演いただきました。

インターネットは道具であり、GIGAスクール構想が進む中、学校にもネット環境が整い一人一台の端末で授業や家庭学習を行うようになってきています。子どもたちを取り巻く環境は、インターネット抜きには語れない状況にあり、その中でネットを利用したいじめや、投稿による炎上などトラブルの発生も現実に起こっています。

小木曾氏は、いじめはいじめであり、ネットを利用しているという点でさらに悪質であるが、この問題はネットの問題としてとらえるのでなく飽くまでいじめの問題としてとらえ、対処すべきであるということでした。

また、炎上の問題については、SNS上で友達限定での公開と言ってもすぐに拡散し、アッという間に個人が特定されるのがネットの世界であり、炎上が治まっても進学、就職などの人生の節目に復活し影響が出てくるという、実際の例を挙げての話であり、ある意味恐怖を感じました。

インターネットで失敗しないためには、SNSの投稿は、自宅の玄関に写真や意見を張り付けることと同じことであり、日常生活でやっていいことはネットでもOK、やって悪いことはダメということさえ解かっていれば良いとのことで、自分も子どもたちも楽しく安全にネットを利用するためこのことを肝に銘じようと思いました。





PTA活動に期待するもの

山形市PTA連合会第21代会長 荒井 寛



『このような時だからこそしっかりと子どもに寄り添う』

「親が気づき学べるPTA 共に語らい共に成長」というスローガンのもと平成27年～28年の2年間山形市PTA連合会会長を務めさせていただきました。当時から事あるごとに話をさせていただいたのは、PTA活動を一人でも多くの人たちに理解してもらい、その環を広げ地域の方々と共に地域の大切な宝である子どもたちのことを社会全体で育てていかなければならぬということでありました。

しかし昨今コロナ禍の影響によってお互いのつながりも希薄となり、新しい生活様式を余儀なくされましたことで、様々な悪影響が生じていると耳にします。部活動の時間が減ったことにより、持て余した時間の使い方がおかしくなったり、或いは親が自宅でリモートによる仕事をするようになり、親子ともども生活のリズムが崩れてしまったりと、以前はほとんど心配する必要の無かった事も新たな心配事として生じています。

様々なストレスなども一つの原因となり、以前より問題視されていた「いじめ」や「不登校」、肉体的虐待・心理的虐待・育児放棄(ネグレクト)といった「児童虐待」や「子どもの貧困問題」、「教育格差」などがより増している傾向にあります。また特に小中高の若年層の自殺は1978年に統計を取り始めて以降、昨年度は最も多い数となり深刻な事態となっています。このような危機的状況だからこそ、今まで保護者である親は子どもたちに真剣に向かい、愛情を注ぎながら子どもたちのことをしっかりと見守っていかなければなりません。

PTAの事業活動ではそういった様々な個人の悩みや問題事を解決するためのヒントや切っ掛け、そしてお互いを助け合おうという会員同士の相互扶助の精神が根付いています。集まることが否定されがちな世の中になっておりますが、来年度はPTAの全国大会も山形で開催されますので、是非、積極的に参加をしていただき、子どもたちが健やかな成長を遂げるための親としての行動や心構え、責任といった様々な知識を得ていただければと思います。今後ともPTA会員の皆様のご活躍を祈念いたします。

PTA活動に思う

山形市立南小学校 校長 清野 正敏



『子どもたちの健やかな成長のために～保護者と学校が同じベクトルで～』

「(前略) 親としては、子どもたちががんばっているところを見守れるだけでも安心するし、心が動かされるものだと改めて感じたところです。大変な中、苦慮していたこともあったと思いますが、開催していただき参観させていただいて、本当にありがとうございました！！」

9／18に予定していた運動会を、10／2に延期・開催後にいただいたお言葉です。文末の「！！」に込められた思いを、勝手に解釈して大喜びしている私でした。延期の決断についてはそれほど悩みませんでしたし、理由も単純、以下の通りです。

運動会という大きな活動の中で、保護者の皆さんが子どもたちの活躍する姿を見たいという願いは明白。校長自身も、活躍・成長した姿を、是非、見ていただきたい。

とはいえ、当初計画を変更することは、たやすいことではありません。実際、変更決定後に、すぐ隣の幼稚園さんと同じ期日になってしまったと判明したときは慌てました。そこまで考えが及ばず、幼稚園さんには大変ご迷惑をおかけしました。急ぎ、園長先生に連絡を取り、幼稚園さんに迷惑はかけられないという思いと、先の述べたように兄弟がいる保護者の皆さんにも参観いただきたいという思いから、本校の開始時刻を11時としました。勿論、様々な感染予防対策をとりました。そして、競技に応援に係の仕事に力いっぱい取り組む子どもたち。感動的でした。

私事で恐縮ですが、前任校は全校生9名の小学校でした。子どもたちの活動に、保護者や地域の方々が惜しみなく協力してくださいました。学校の規模は違えど、子どもに対する保護者の思いは変わらないと確信しています。今回の延期の判断をした背景には、その経験があります。

「子どもたちの健やかな成長のために～保護者と学校が同じベクトルで～」教育に携わる者として、また一つ、貴重な経験をさせていただいたと感謝しています。

第53回日本PTA東北ブロック研究大会 盛岡大会から

山形市PTA連合会事務局長 大江昌信

9月4日(土)、第53回日本PTA東北ブロック研究大会盛岡大会が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大が新たな局面に入り、岩手県独自の緊急事態宣言が出されている状況になり、完全オンラインでのリアル配信となりました。盛岡大会は、「東北の大地に根ざし、希望と幸いを求め、生きる力を育むPTA活動をめざして」～先人から学び、新しいPTA活動の在り方を探る～の大会主題のもと、全体会と4つの分科会が行われ、全体会と第3分科会(家庭教育)だけがリアル配信で、そのほかは後日配信されました。

全体会では次期開催地あいさつがあり、山形大会のPR動画の後、リモートで船橋実行委員長と多くの実行委員がお揃いのTシャツを着て、山形大会スローガン「人とひとのつながりを体感しよう！」～あがらっしゃい精神の山形から～を合言葉にライブ配信しました。第2分科会「組織運営」では、パネリストとして山形三中PTA会長の佐藤清徳氏がリモートで参加し、伝統的に取り組んでいる「我が家の〇〇運動」等の発表がありました。

この盛岡大会は昨年に引き続き中止も考えなくてはならない状況でしたが、「学びの歩みを止めない」という熱い想いからオンラインで実施されました。コロナ禍において多くのPTA会員の「つながり」を大切にして、子どもたちの健全育成のためにも、「歩み続けなければ」と改めて感じた大会でした。



日本PTA全国研究大会北九州大会から

山形大会実行副委員長 前田浩一

去る8月21日(土)、第69回日本PTA全国研究大会北九州大会が開催されました。例年の全国研究大会には山形市PTA連合会からも多数の参加をしていただいた状況でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言の発令により、現地での観察とPRを断念せざるを得ない状況となってしまいました。しかし、大会初のオンライン開催となり、PRについては幸いにもリモートにより山形会場とつないでいただく運びとなりました。船橋実行委員長を筆頭に多くの実行委員メンバーが集まり、大会スローガン「人とひとのつながりを体感しよう！」～あがらっしゃい精神の山形から～を合言葉に、全国の皆様からぜひ山形の地に足を運んでいただき、おもてなしの心とつながりの大切さを体感出来る大会にしたい、その熱い気持ちをライブ配信で全国の皆様に伝えました。

当日は、オンライン配信がされ、講演会はトークセッション形式で3つのテーマについてパネリストによる活発な討論により、長さを感じさせない内容の濃い大会でした。このコロナ禍においても、子どもたちは成長を続けているので、私たちも「学びの歩み」を止める事なく子どもたちの成長を見守っていかなくてはならないと改めて感じました。

いよいよ来年度は山形大会の開催です。折角頂戴したこの機会を活用し、山形県PTA連合会の活性化はもちろんのこと、すべては愛する子どもたちのため、そしてすべてのPTA会員が人とひとの「つながり」の大切さを再確認出来る大会を目指し実行委員会としても精一杯活動していきますので、どうぞご理解の上ご協力をよろしくお願ひいたします。



令和3年度 山形市PTA連合会 母親委員会 活動報告

山形市PTA連合会 母親委員長
高見佳澄

テーマ：「命の尊さ大切さ」～かかわる喜び つながる心～

○定例母親委員会

- ・第1回母親委員会（5/11）今年度の活動計画・情報交換
- ・第2回母親委員会（6/21）研修会・情報交換
- ・第3回母親委員会（2/15）今年度の反省・情報交換

○親学「家庭教育視察研修」（日程調整中）

- ・山形市青少年指導センター

○拡大母親委員会（10/31）

講演：「いのちの大切さ学習会」

～正しく怖がるインターネット・事例に学ぶ情報リテラシー～

講師：小木曾 健 氏（情報リテラシー専門家）

○母親委員会だより「マザーズねっとわーく」

No.26 3月発行

日々母親委員会の活動に、ご理解・ご協力いただきましてありがとうございます。また、単位PTAにおかれましてもコロナ感染に気を付けながら、できる限りの活動をしていただき感謝申しあげます。

本年度は第1回の定例会時に単位PTAの委員長さん方からいただいた、子どもたちの様子や各学校の母親委員会の活動の悩みを、皆さんと共有するとともに、第2回定例会では「コロナ禍での子どもへの励まし方、声のかけ方」を山形県スクールカウンセラーの伊藤洋子先生より講演いただき、拡大母親委員会では山形市PTA連合会の研修会と共にインターネットや情報リテラシーについて小木曾健先生より講演いただきました。各学校の活動において、他校の興味のある活動の情報提供も行い、各学校の母親委員会の活動がより良いものになればと思っております。

私たちは、コロナ感染に気を付けながらも、子どもたちの幸せな未来のために、学び合うこと、情報を共有すること大切にし、今後の様々な活動に活かしていくように努めていきたいと思います。

晴れの受賞 おめでとうございます

（山形市PTA関係）

☆日本PTA全国協議会会長表彰（団体）

- ・山形市立第三中学校PTA

☆日本PTA全国協議会会長表彰（個人）

- ・村山良光 前県（市）P事務局長

☆東北ブロックPTA協議会会長表彰（団体）

- ・山形市立第二小学校PTA

☆東北ブロックPTA協議会会長表彰

- 〈感謝状〉・佐藤博之 前山形県（市）PTA連合会会長
・村山良光 前山形県（市）PTA連合会事務局長

☆山形県PTA連合会会長表彰

- 〈感謝状〉・佐藤博之 前山形県（市）PTA連合会会長
・村山良光 前山形県（市）PTA連合会事務局長
〈表彰状〉・安食克彦 山形市P前副会長
・小林一善 山形市P前副会長
・藤倉大輔 山形市P前理事

☆山形市PTA連合会会長表彰（感謝状）

- | | |
|-----------------|----------------|
| ・佐藤博之（前会長／第六小） | ・山口真史（前理事／藏二小） |
| ・安食克彦（前副会長／山三中） | ・渋江朋博（前理事／第一中） |
| ・小林一善（前副会長／第六中） | ・佐藤公啓（前理事／附属中） |
| ・島軒 隆（前副会長／滝山小） | ・井上敬弘（前理事／第十中） |
| ・廣谷 修（前理事／南山形小） | ・井田智幸（前監事／第九小） |
| ・丹野裕一（前理事／西小） | ・近藤恵一（前監事／金井小） |
| ・藤倉大輔（前理事／千歳小） | ・村山良光（前事務局長） |
| ・岩松 剛（前理事／大郷小） | |
| ・吾住勝義（前理事／村木沢小） | |
| ・加藤健司（前理事／橋山小） | |

令3年度 山形市PTA連合会役員名簿

役職名	氏名	所属PTA
会長	船橋吾一	藏一中
副会長	武田靖裕	鈴川小
副会長	佐藤清徳	第三中
副会長	無着哲哉	第一中
副会長(T)	清野正敏	南小
副会長(T)	井上賢一	第三中
理事	豊川剛	第六小
理事	今野幹雄	東小
理事	星川健一	出羽小
理事	佐藤宏幸	山寺小中
理事	宇野正彦	第十中

役職名	氏名	所属PTA
理事	古沢和明	第五中
理事	草薙三郎	第八中
理事	武田敦	第九中
理事	志賀雅彦	金井中
理事	佐藤元	附属中
理事	高見佳澄	山寺小中
監事	後藤康晴	第二中
監事	上條智広	藏二小
事務局長	大江昌信	
事務局員	佐藤靜子	
事務局員	奥山絢子	

編集後記

令和3年度の山形市PTA連合会会報『じゅひょう』の発行にあたり、原稿や写真をお寄せいただいた皆様に対し心より感謝と御礼を申し上げます。例年通り、広報委員会のメンバーで原稿のご依頼や校正作業等を市P連事務局のご協力を得ながら完成に至りました。ご一読いただけますと幸いです。

さて、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により「ソフトボール大会」が昨年に続き中止となり、「第64回山形市PTA連合会研修大会」「教育懇談会」の規模縮小やリモート開催など、ほとんどの行事が影響を受けました。コロナ禍による困難な状況下での活動でしたが、それぞれ担当された方々本当にご苦労様でした。

来年度は『第70回日本PTA全国研究大会山形大会』が山形市総合スポーツセンターをメイン会場に開催されます。大成功に向け、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

